



令和3年度 年間報告

子ども期/子ども時代に心と体が健康であること、社会的な適応能力を高めること、情操を豊かにすること等の様々な体験は、未来を担う子どもたちの成長に欠かせないものです。

私たち、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会は、そんな子どもたちの体験活動の場を安定的に提供することを目的として、「こども基金 さっぽろスマイルキッズ」事業を行っております。平成21年4月の開設以降、多くの方々からご支援をいただき、札幌市の市民グループならびに当財団で企画・実施する子どもたちを対象とした豊かな体験機会を提供する様々な事業への助成を行っております。助成した事業に参加した子どもたちの輝く瞳に、体験学習の環境を提供する大人としての責務を痛感せずにはられません。

当基金は今後も、子どもたちが「子どもの時間」を充実して過ごし、豊かな体験を携えて成長することができる環境作りを行ってまいります。

令和3年度 寄付総額のご報告

平成21年よりスタートした「こども基金 さっぽろスマイルキッズ」も、今年度で13年目を迎えました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度・令和3年度と通常の助成先募集を行うことができませんでしたが、そのような中でも今年度もたくさんの皆さまよりさっぽろの子どもたちの未来のためにご厚志を賜りました。改めまして、厚く御礼申し上げます。

令和4年度からは、新型コロナウイルス感染対策を施した団体を対象とし、助成先募集を再開しております。詳細につきましては、最終ページをご覧ください。

いただいた寄付金は、子どもたちの未来のために有意義に運用して参ります。引き続きご支援の程、お願い申し上げます。

令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日まで）にご寄付頂いた皆様

てらおあっちゃん 様	福井 幸子 様	池内 由衣奈 様
鷺野 琴恵 様	河合 喜美子 様	鈴木 静悟 様
遠藤 緑 様	三好 宏子様	井本 剛司 様
やまびこ座読み語りの会 様	旧栄通児童会館運営委員会 様	
北海道コカ・コーラボトリング株式会社 様		
株式会社館野オフィスサービス 様		
北海道デジタル・アンド・コンサルティング株式会社 様		他4件

※お名前につきましては、掲載の許可をいただいた方のみ掲載しております。

また、当財団HPおよび当財団発行の「さっぽろ・こども情報誌『あそぼ』」（隔月発行・札幌市内全小学校や公共施設などで配布）にもご紹介しています。



過去助成団体へのインタビュー

平成21年のこども基金開設以降、「こども基金 スマイルキッズ」はたくさんの皆様にご支援をいただき、子どもたちの豊かな体験活動を行う団体へ助成を行っております。

今回は、その中でも、平成30年度に「スタートアップ事業」部門で、そして令和元年度に「ステップアップ事業」部門で助成をさせていただいた、「子どものためのオペレッタワークショップ実行委員会」（札幌市）実行委員の田中さんと市川さんに、「こども基金 さっぼろスマイルキッズ」をどのように子どもたちの活動にお役立ていただいたか、インタビューをしてまいりました。



—まずは、貴団体の設立のきっかけと、活動内容を教えて下さい。

田中さん：小学校3年生から高校生までの子どもを対象とした、オペレッタ（音楽劇）のワークショップを開催しています。半年間、参加者はプロの先生方の指導を受け、練習を重ねて最後はオペレッタの発表公演を行います。12年間札幌市教育文化会館が主催で行われてきたワークショップで、毎年参加者を抽選で決定するほど人気だったのですが、平成27年に突然中止が決定してしまいました。毎年参加していた子どもたちの落胆する姿を見て、参加者のお母さんたちが署名活動を行い、札幌市に呼びかけました。その結果、教育文化会館との共催で継続できることになりました。その時活動したお母さんたちが今の実行委員会です。



札幌だけではなく市外から参加する子どもも多いプロの先生からオペレッタの上演に向けてレッスンを受ける

—運営の事や、ご苦労された事などを教えてください。

田中さん：一番困ったのが資金面でした。教育文化会館主催の時のものからクオリティーを下げたくなかったのです。

市川さん：指揮者、演出家、作曲家をはじめとする先生方は音楽のプロの方たちばかりです。舞台、音響など、子どもたちには『本物の』オペレッタを経験してもらいたかったんです。

田中さん：子どもたちに本物を知ってもらい、体験してもらうためにはどうしてもお金が必要でした。

市川さん：オペレッタでは先生方が正しい音、正しい発声を教えてくれます。今は学芸会も主役が何人もいますよね。でもここはひとつの役を、きちんと自分で最初から最後まで作り上げる構成にしていたり、舞台上で使う道具も舞台監督さんや美術さんにヒントをもらいながら皆で作ります。その辺も学校では子どもたちが経験できない内容になっています。

—ゆずれないこだわりがあったんですね

田中さん：はい。ところが令和元年は教育文化会館が共催ではない年で、この年は本当に資金集めが大変でした。

市川さん：令和元年の開催時のメインのスポンサーはスマイルキッズさんです！

田中さん：スタートアップ事業として助成を受けた後、事務局さんからステップアップ事業に応募しませんか？とお声掛け頂きました。本当に大変な時にスマイルキッズさんに支えて頂いたおかげで開催出来ました。改めて、ありがとうございました。

—子どもたちの豊かな体験の場の提供にお役立ていただけたのなら本望です。

田中さん：はい。本当に豊かな体験の場を支えて頂きました！参加者は年代が幅広く、障がいのある子、様々な問題を抱えた子、色々な事情のある子どもも参加します。その中で自然に年齢が上の子が、年下の子の面倒を見る、お世話をするという慣習が出来上がっています。また、順繰りと大学生のOGがボランティアで毎回のようにお手伝いに来てくれました。オペレッタは脈々と学校以外のみんなの居場所になっています！



舞台上で登場する小道具も参加者が意見を出し合いながら自ら手作りしている



子どもたちの目標達成のため、当日は保護者もスタッフとして大忙し！

市川さん：うちの子どもはダウン症なのですが、小3から毎回楽しく参加しています。息子はお話が上手にできないんですが、他の参加者のお友達に、親しく声をかけてもらって皆に溶け込んでいます。以前の参加者のお母様は、発表公演後に「障がいのある子もない子も皆で一緒に1つのことに向かう、こういう世界を目指したい」と言って感動されていました。

田中さん：オペレッタワークショップスタートから発表公演までの半年間で子どもたちは、それぞれの課題をクリアして確実に成長します。歌や演技の楽しさを認識し、人との関わりからコミュニケーションを学び、皆との一体感、そして何より自分に自信を持つようになります。また、関わる周りの大人たち、講師やスタッフも参加者から大きな刺激を受けます。そして発表公演を見に来てくださった観客にも大きな感動を与えます。そのような意義のある活動を支えてくださったスマイルキッズさんには大変感謝をしております。これからも私たちは子どもたちの成長を支えるお手伝いを続けていきたいと思っています。



公演後の子どもたちには自信や達成感、そして笑顔が満ち溢れている



インタビューにご協力くださった
左：田中 伸恵さん
右：市川 裕子さん



「子どものためのオペレッタワークショップ実行委員会」さんのように、人と人が支えあっている事ができる豊かな社会を実現する事業を、これからも「こども基金 さっぽろスマイルキッズ」は応援してまいります！

さっぽろスマイルキッズ助成事業の実績

平成30年度、令和元年度の助成事業は、以下の通りとなっております。

なお、令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響等を鑑み、助成事業募集を中止いたしました。令和3年度につきましては、一部条件付きで助成募集を再開しました。（応募団体なし）

令和4年度の助成事業募集につきましては、順次当財団ホームページにて公開いたします。詳細はホームページにてご確認ください。

【令和元年度】

スタートアップ事業

- 「～ちいさなひとつのための読み聞かせオペラ～知里幸恵と金子みすゞ」 accie (アッチェ)
- 「どさんこマーブルタウン」 どさんこマーブルタウン実行委員会
- 「4歳からのたのしい科学冬まつり (SAPPOROサイエンスフェスティバル)」 NPO北海道ネウボラ
- 「将棋を指す場の創出と子どもの可能性を引き出す事業」 さっぽろ将棋普及の会
- 「桑園こどもDAYプロジェクト」 桑園あそびばプロジェクト

学生チャレンジ事業

- 「進路、どうやって決めた？」 学生団体もちべいたー
- 「にぶんのいち成人式」 ありがたいのちの応援プロジェクト

ステップアップ事業

- 「子どものためのオペレッタワークショップ」 子どものためのオペレッタワークショップ実行委員会

【平成30年度】

スタートアップ事業

- 「地域ではじめる遊び場づくり～桑園あそびばモデル～」 まなびデザイン
- 「あそびはこどもの主食です！」 「今こそ遊ぼう！」 実行委員会
- 「子どものためのオペレッタワークショップ」 子どものためのオペレッタワークショップ実行委員会

ステップアップ事業

- 「アナウンサーによるレッスン&読み聞かせコンサート」 こどもスマイルサポート協議会
- 「冬も！キャンプに行こう！」 特定非営利活動法人遊び屋本舗

こども基金 さっぽろスマイルキッズへ 皆さまからのご支援をお願いいたします



ご寄付は、基金の拡充と、子どもの体験活動を通じた健全育成活動を幅広く支援するために活用させていただきます。

①クレジットカード（オンライン）によるご寄付

令和3年9月より、クレジットカードによるオンライン決済サービス「Square」でのご寄付受付を開始いたしました。都度寄付（一度のみの寄付）と、毎月寄付をお選びいただけます。右のQRコードよりお進みいただけます。



②銀行口座からのお振り込みによるご寄付

銀行名 北海道銀行 宮の沢支店
口座番号 普通 0589165
口座名義人 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
理事長 野崎清史（のざききよし）

③現金によるご寄付

事務局等におきまして、直接のご寄付も受け付けております。

※上記②および③によるご寄付の場合は、お手数ですが、事前に事務局までご連絡いただきますよう、ご協力の程お願い申し上げます。

※当基金に対するご寄付には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、**所得税・法人税などの寄付金控除を受けることができます。**なお、ご寄付いただいた方には、寄付金控除の申告手続き用書類として領収書を発行いたします。

※ご寄付いただいた方のお名前につきましては、掲載の許可をいただいた方のみ、当財団HPおよび当財団発行の「さっぽろ・こども情報誌『あそぼ』」（隔月発行・札幌市内全小学校や公共施設などで配布）にもご紹介させていただきます。

※3万円以上ご寄付をいただいた方へは、感謝状を贈呈させていただきます。



発行日：令和4年4月吉日

発行元・お問い合わせ先：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会

総務課 こども基金事務局

〒064-0804

札幌市中央区南4条西6丁目8-3 晴ればれビル10階

TEL:011-299-4590 E-mail:smilekids@syaa.jp